

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	子ども青少年課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	佐久山 久美子	内線 691-6411
小施策	2-5	困難を抱えた子ども・若者の支援	評価 シート 作成者	佐々木 正仁	内線 691-6412

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
少子化、核家族化などにより、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化し、ニートやひきこもりなどが増加しているため、困難を抱えた子ども・若者が自立するための支援を行う必要がある。		不登校、ニート、ひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱えた子ども・若者を支援する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
若者		困難を抱えた若者が自立できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成果の要因分析
子ども・若者に関する相談回数(少年相談、(仮称)子ども・若者相談)	回	↗			
当初値 (H25)	27				
R1目標値	100				
R6目標値	100				
			・青少年相談員による相談対応件数が年々増加しており、困難を抱えた子ども・若者の支援を行うことができた。	・平成29年度以降、本市の子ども・若者に関する相談窓口を一元化したことを契機に、相談機能を持つ庁内関係部署や関係機関と、積極的な情報共有に努めているため。	
			問 題 点	⇒	問題の要因分析
			・不登校、引きこもりなど、困難を抱えた子ども・若者は増加傾向にあると認められるが、子ども・若者に関する相談件数は目標値に達していない状況にある。		・子ども・若者に関する相談機関があることの周知が足りない。

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★ 子ども家庭総合支援センター等の関係部署と連携し、積極的に訪問活動を行うなど相談対応を強化する。	